

保存樹林樹種	富山市	高岡市	入善町	保存樹林樹種	富山市	高岡市	入善町
タブノキ	6		2	ハンノキ	1	2	
ツガ	6		1	プラタナス	1		
イタヤカエデ	1			コウヤマキ			1
オオバヤナギ	1			イヌマキ			1
タイサンボク	1			ケンボナシ			1
ヒバ	1			タラヨウ			1
モッコク	1			トチノキ			1
モクレン(シモクレン)	1	1		アカシデ			1
ヒノキ	1			コブシ			1
ハゼ	1			クス			1
ハクウンボク	1			ユズ			1
シラカシ	1	3		ギンモクセイ			1
ゴヨウマツ		2	1	ヒガンザクラ			1
ドウダンツツジ			2	カヤ			1
サラサドウダン			1	ヒイラギ			1
キンモクセイ			1	ラカンマキ			1

#### 4) 保存樹木樹種の地域性

大日本老樹名木誌発刊の大正2年頃は、スギが全国の第1位を占め、スギの里にふさわしい県であったが、上記の地域では、富山市が顕著にそのスギの里の特性を発揮している。ケヤキも前記の名木の中で、県内では第2位を占めているが、高岡市、入善町では当時の顕著な名残りを止めている。イチョウも信仰の対象として神社、仏閣に栽植されていることが明瞭にあらわれている。黒部川扇状地の砂礫河床地帯の立地環境をクロマツ、アカマツが示すものとして入善町の保存樹木がよく示している。エノキも優位を占めているが、河川の橋爪や塚などに植えられたようで、昔は神霊の宿る樹木として渡河や道中の安全を祈った。モミは富山、石川、福井の3県ではトガと呼び、神社、仏閣、1個人の屋敷内にも植え、地区や家の繁栄と格式を表示する慣習があった。その他、これらの保存樹木にはいろいろな由緒があると思われるが、入善町のタブノキやシイノキの多いことは、黒部川扇状地帯の末端の気象が氷見地区と似た暖温帯性であること、また地形的には単なる扇状地のみではなく、もっと複

雑な成因を持った地域と考えられる。

#### 5. 富山県における天然記念物指定の樹種と地域性

##### 1) 樹種の内容

前述の保存樹木が54種に対し、天然記念物指定樹種は40種ある。これら樹種の中で、件数の多いものは前者では第1位はスギ、第2位はケヤキ、第3位はイチョウ、第4位はマツ、第5位はエノキに対し、後者では第1位はスギ、第2位はケヤキ、第3位はサクラ、第4位はイチョウ、ツバキ、第5位はシイノキ、ツナギガヤがあり、在来種でないイチョウ、ツナギガヤが優位となる理由は信仰の対象となるからである。

##### 2) 樹種の地域性

クロマツは呉羽山以東の海岸地帯に多い。呉羽山以西で海岸が山麓に接している氷見地域では照葉樹林の主体をなすタブノキ、ツバキがたくさん指定されている。大日本老樹名木誌では、フジが全国第1位を占めているが、黒部川扇状地帯に、その名残りが温存していることがわかる。なおフジの歴史的に有名なものとしては、氷見市田子浦藤波神社の境内にある大フジがある。田子のフジを主題とした謡曲「藤」は佐阿弥の作と伝えられているが、都からの僧が善光寺へ参詣の途中、この田子ノ浦に足を休め、常盤の松の緑の間に匂い出た紫の花に心をひかれていたところ、藤の精が現われて夜半、舞をまわって暁と共に消えゆくという精霊的な物語りとなっている。黒部市三日市の三島の化けフジにも精霊的な物語りが残っている。氷見の矢崎の大フジも神木として崇敬され、万葉時代の布施湖のおもかげが保存され、「藤浪の花の盛にかくしこそ 浦漕ぎ廻つつ年に偲はめ」(4188)と大伴家持がよんでいる。また氷見市の長坂にある大イヌグスは見事な巨樹で、諏訪の神木として崇敬されてきたが、有名な万葉集の「磯の上のつままを見れば根を延へて 年深からし神さけびにけり」(4159)との風格を備えている。このつままはイヌグスであるとされているが、氷見の海岸に多い。この地域と相対する朝日町の鹿島樹叢にも見られる。なお、朝日町、入善町の海岸や山麓部にもこのつままの巨樹が多数分布していることも注目に値する。



富山県における天然記念物樹種と地域 (◎ 国指定, ○ 県指定)

樹種	地域別														総計															
	呉東地域							呉西地域																						
市町村	富山	魚津	滑川	黒部	舟橋	入善	朝日	大野	上市	立山	宇奈月	八尾	新高	水見	小杉	大門	下村	大島	砺波	小矢部	山田	城端	上平	利賀	庄川	井波	福野	福光	福岡	
クロマツ	①	1	1			1																								① 3
ケヤキ	①		1			1	1	①			②					1		1								1		①		⑤ 6
シイノキ	①					①			3																					① ① 3
サルスベリ	1																													1
モチノキ	1																													1
カエデ								①			①	1																		② 1
コシノヒガナザクラ												1				①														① 1
スギ		①	2	1		①	1		1	①	4	1	2			①	1		1	①	2	2		1	2	①	④	④	22	
カラカサマツ													①																	①
水島柿													1																	1
ツナギガヤ	①										①	1														1	1			② 3
タブノキ													②																	②
ツツギ			1										②			2				1										② 4
サクラ							1			①	1		①	1						1					1			2	② 6	
モミ(トガ)								①					1																	① 1
アカマツ																											1	1		2
ヒイラギ		1							1						①															① 2
イチョウ		1					1	1								1												2	6	
ギンモクセイ		1																												1
フジ			1			②																								② 2
ハマナス			1																											1
サザンカ			1																											1
イチイ																1														1
アカガシ								①	①																					②
エノキ									1																					1

	富山	魚津	滑川	黒部	舟橋	入善	朝日	大野	上市	立山	宇奈月	八尾	新高	水見	小杉	大門	下村	大島	砺波	小矢部	山田	城端	上平	利賀	庄川	井波	福野	福光	福岡	総計	
サルスベリ								①																						①	
ヒサカキ								1																							1
ギンモクセイ									1																						1
ラカンマイ									1																						1
ネジキ									1																						1
チャンチン									1																						1
トチ										①																	②				② ①
ウラジロガン							1			①			1							1										① 3	
サイカチ											①																				①
カツラ																												①	1		① 2
ウワミズザクラ														1																1	
ナシ																											1				1
モチノキ																											1				1
アベマキ																											1				1

「本草図譜」や「大日本老樹名木誌」に記載されている植物名は下記の如く漢字名である。

ヒイラギ(終), キンモクセイ(金木犀), カキ(柿), ツツジ(躑躅), ハリギリ(刺楸), サルスベリ(百日紅), タラヨウ(多羅葉樹), ツバキ(椿), アオギリ(梧桐), ボダイジュ(菩提樹), フジ(藤), トチノキ(椴), イロハカエデ(槭樹), モチノキ(繭), ハゼ(樺), シナエンジュ(槐), サイカチ(皂莢), ウメ(梅), アンズ(杏), サクラ(櫻), ビワ(枇杷), アオナシ(梨), クスノキ(樟), ホオノキ(厚朴), モクレン(木蓮), カツラ(桂), イブキ(柏檜), コナラ(枹), ガジュマル(榕樹), ケグワ(桑), ケヤキ(榿), エノキ(榎), ムクノキ(棕), スダジイ(椎), アラガシ(櫟), クヌギ(櫟), カシワ(櫟), クリ(栗), オニクルミ(胡桃), ヤマモモ(楊梅), コゴメヤナギ(柳), ナギ(竹柏), ネズ(杜松), ヒノキ(檜), スギ(杉), マツ(松), コウヤマキ(高野槲), カラマツ(落葉松), モミ(樅), トドマツ(根), ツガ(梅), イヌマキ(檜), カヤ(樺), キャラボク(伽羅木), イチョウ(公孫樹), ソテツ(蘇鉄)。



## 6. 巨樹・名木に対する時代別の考え方

巨樹名木は長い年月にわたり、自然界の厳しい試練に耐えながら生育を続けて来ている。この樹木に対し、時代によって人びとの考え方は違っている。この時代の区分は、人びとの生存と直結する生産を基盤にして行った。この生産の立場から巨樹名木に対する接し方の分析によって、その時代の特徴をあげることにした。さらに今後におけるこれら巨樹名木の存在価値についても検討を加えることにする。

### 1) 自然物融合時代の考え方

まず、古代における日本民族の自然物に対する考え方を把握するために、民族の成り立ちについて、先ず次の学説をあげて検討を加えることにした。日本列島に住みついた種族については次の3種族があげられている。① 東南アジアから黒潮に乗って北上して来た種族。② シベリアのアムール川流域からサハリン、北海道を経て南下してきた種族。③ 中国から朝鮮半島を経て九州および西日本各地にたびたび渡来して来た種族。これらの種族が混血するあいだに、風土に即した言語と生活文化の感覚様式を一樣にした日本民族が構成された。しかもこれら種族はアジア民族固有の自然一体化のアニミズム的自然観が心底にあったことは縄文時代の遺跡から検出される土偶、護符あるいは環状列石などから自然物崇拜にまつわる呪術的風習からも推測される。

当時の人たちの生活は自然と一体化した狩猟採集によるイコロジカル・マンとしての暮し方をしていた。そのため一種特有の気品と風格を備えた老樹に対しては深い靈感と脅威を持ったものと思われる。現在も行なわれている原始的粗放農業である焼畑の呪術的風習からもそれがうかがわれる。

### 2) 農業生産時代の考え方

水稻栽培が中国大陸や朝鮮半島から渡来してきた弥生時代となると土地に定着した集落ができるようになった。それぞれの集落ごとに共同で、開墾、治水、さらに秋の豊饒を願う祭祀行事などが実施された。なお、自然林を開拓して農耕地化するさいには、自然の靈感に対し「自然と人との和解」のために開拓の林中でもっとも異色と風格を備えた巨大な樹木が神霊の宿る樹木として大切に保存されたことが各種資料で明確である。その他、植物中心の農業主義のこの時代にあっては、巨樹の開葉、開花による農事暦、あるいは農業生産の豊凶を示す占象、さらに農業の霊威的な主役をなす神の天界と地界とを結ぶ「よりしろ」として重視され、崇敬の目標であったことなどを巨樹名木に因む由緒、伝説の中からうかがうことができる。

奈良時代には中央集権国家としての体制が整ったが、民衆は重い租税や夫役に追われ、貴族間では謀略、抗争が絶え間なく当時の呪咀用の木造人形がたくさん出土している。この行為は江戸時代に流行した「丑刻参り」となるが、これらの人形が聖城の神木に打込まれた。

また『続日本後紀』巻八の承和6年(839)の記事に神功皇后陵の陵木を伐採した者がいたので山陵が怒り旱天を続かせたと、陵木の祟りとして恐れている。墳丘上に常緑の樹木を植えることは当時の風習であった。

鎌倉時代になると、宗教は貴族の枠から離れ、武士や民衆の中に浸透する革命期となり、ここに鎌倉新仏教が起った。浄土真宗の開祖・親鸞上人は法然上人の念仏停止に連座して、越後に流罪、その道中にて多くの奇蹟樹を残している。また念仏踊を民衆に勧めた遊行僧、一遍上人を中心とした移動性教団が起った。この教団では比丘尼の活躍もめざましいものがあって、日本海側では若狭の八百比丘尼が広くツバキの伝播を行った伝説が残っている。

日本には古来より長く死者に対する祭祀的な行為があった。そのため遺骸は遠く離れた所に「埋め墓」として置き、長くその死者を祭る「詣り墓」を人里近くにおく両墓制があった。この原因は穢れた遺骸を避け、死霊を畏怖して忘却されるべき地と、祖霊を別の浄地に祀ろうとする信仰に基くもので、仏教の影響下では、寺院内に「詣り墓」ができ、さらに「埋め墓」と「詣り墓」が合体して単墓制へと移行したものと考えられる。この「埋め墓」に植樹の慣行があったのではなかろうか。古い集落の「埋め墓」とみられる墓地内に常緑樹や花木の巨樹が保存された地域が各地に分布している。現在も長野県、その他の地方に見られるシダレザクラ、サルスベリなどがあげられる。

### 3) 工業生産時代の考え方

近世になり、自然科学により産業革命が勃発し、今までの伝統ある自然と人間が共存する植物中心の農業主義の世相が人間中心主義で、科学技術を武器として経済学を基盤とする世相に転換した。この社会では一切の利他的な感情や動機を無視して、ただ富と快楽を追求する傾向が旺盛となってきた。日本では江戸幕藩体制が崩壊して、明治新体制となり、先ず宗教改革が断行され、従来の神仏融合が分離され、廃仏毀釈、一村一鎮守制となった。また、啓蒙的合理主義を強調したものとして、明治26年9月8日に富山県知事の名のもとに告諭第3号があげられる。「畦蔭の稲作上に障害あるは今更之を喋々する要なしと雖も或は撰種に肥培に其改良方法講究の今日に於て尚ほ畦蔭の存在を見るは甚だ遺憾なり、抑も畦蔭の区域内なる稲禾は其生育に必要な日光の透射及び空気の流通を妨げらるゝを以て其成長不良且軟弱にして虫害風害等に惟り易く之が為めに収穫を減ずること平年に在りても三割以



上に昇れり、今県下田段別七万七千九百八拾八町歩の中、畦蔭の害を受くへきもの一割とせは七千七百九拾八町八段歩にして普通一段歩の産穫平均式石とし畦蔭の爲めに其三割を減ずるものとせは七千七百九拾八町八段歩の止にて四万六千七百九拾式石八斗にして其価格壹石五円とするも式拾三万三千九百六拾四円なり、斯る見易き損害を措へて顧みざるは稲作改良上の一大闕点なるのみならず此障害を除かざるに於ては仮令撰種に肥培に幾多の改良を爲すも到底其良成績を収むること能はず故に之れが地主たる者互に申合せ畦蔭を伐除し以て稲作改良の進歩を助すくへし」とある。また、明治36年12月29日に富山県知事が次の富山県耕地障害木取締規則を発令している。「第1条 田地ノ畦畔並ニ耕作道路溝渠畔ニ成立スル樹木ニシテ陰影ヲ与フルモノハ其ノ所有者又ハ管理者ニ於テ明治三十七年十二月末日迄ニ之ヲ掘取り若ハ根元ヨリ伐採スヘシ、但シ果実ノ採集、米穀、乾燥及用水路ノ保護等ノ目的ニ供スルモノニシテ其ノ存置ノ必要若ハ利益ヲ郡市長ニ於テ認定シタルモノハ此限ニ在ラス。第2条 省略。第3条 米穀ノ乾燥上存置ノ必要アルモノト雖モ闊葉樹(ハンノキ、チャンチン、ヤナギ、トネリコ類)ニ在テハ第1条ノ期限迄ニ地上ヨリ高サ二間半以内ノ処ヨリ本幹ヲ伐採シ其ノ枝条ハ高サ一間以上ニ伸長セシムルコトヲ得ス。針葉樹(杉、松、アデ類)ニ在テハ本幹ノ全長五分ノ四以上ノ処マデ其ノ枝葉を苜払フヘシ。第4条 前条存置ノ許可ヲ受ケタル樹木ト雖モ其ノ枝条ノ著シク繁茂シテ雨露ノ直接田面ニ落ツルヲ遮ルモノハ第1条ノ期限迄ニ其ノ枝条ノ田面ニ掛ラサル様垂直ニ苜込ムヘシ。田地内ニ孕在シ又ハ田地ニ接続スル山林原野ノ樹木モ亦之ニ準ス。第5条 新タニ田地ノ畦畔ニ樹木ヲ植栽セムトスルモノハ、其ノ場所、目的、樹数及本数ヲ記載シタル願書ヲ所轄郡市長ニ差出シ許可ヲ受クヘシ。第6条 第1条、第3条、第4条、第5条ニ違背シタルモノハ拾円以下ノ罰金ニ処ス」とある。この陰樹伐採思想こそ、老樹名木に対する考え方を無関心、さらに邪魔物扱いに追い込む原因となったものではなからうか。老樹名木の受難の時代ともいえるが、しかし一部では信仰の対象として、地方人に愛護され、また行政的にも保存の手がさしのべられた。

#### 4) 植物生産時代の考え方

工業生産の急速な増加によって日々の生活内容は一変したが、その反面、生命維持のシステムを支配する緑の財産を恐ろしい速度で破壊している。このままで行くと人類滅亡に追いこむことが叫ばれてきた。工業化のもたらした大きい欠陥は精神的には謙虚さや優しさを奪い、自然に対する攻撃的な気持ちばかり植えつけた。その結果、毎年莫大な緑の資源を失うことになったが、このため地球的な立場から理智的に植物の存在の必要性が考えられてきた。例えば、緑の毛布による地表の保護、大気の調節、新鮮な水の維持、工業原料の供給、主要穀物

の遺伝資源、様々な分野において未知の可能性を秘めた野生資源の減少などに警鐘が鳴り出した。現在は理性と感性とのバランスを重視する時代となってきている。これらの事象に対処するには西洋的自然観の「科学至上主義」では限界があって、これを打破するには梅原猛氏の「美と宗教の発見—創造的の日本文化論—」で指摘する「山川草木、悉有仏性」による「自然生命的存在論」を根底とした自然保護が必要となってきている。現在、ややもすると西洋流の自然観を発想として、「森林浴の森」「花の名所づくり」「巨樹・名木林調査」などが全国的に進められているが、この根底に日本固有の東洋的自然観のあることを忘れてはならない。日本人が森の文化の伝統の上に維持してきた循環系の自然観「たたり」の思想をもう一度新しい近代的な観点に立って見直す必要がある。その意味で手近かに身慣れている老樹名木の存在に対し、立地環境の立場から、歴史的、民俗的な立場から総合的に見直し、植物生産時代の指針としたいものである。

#### 7. 巨樹・名木の機能

この巨樹・名木は生物界における最大、最長寿の生命体で、しかも人類と共存する自然界の支配者とも考えられる。全国に点在するこれらの樹木は日本の栄枯盛衰を見守ってきた。その意味で日本歴史のものいわぬ証人とも云える。また一面、時代に応じた働きをなしてきた。この意味のある機能をあげて樹木信仰の内容を次に列記することにする。この例は大日本老樹名木誌を主体にしてあげた。

##### ① 神靈樹

神が宿る樹木は巨樹に対する共通の考え方であるが、直接神木であることを明記したものでは、茨城県—長倉ノ神杉、京都府—別所の神杉、鞍馬山の神杉、岐阜県—松山の神櫻、埼玉県—広瀬ノ神櫻、大分県—若宮ノ御神大杉、宮崎県—十津川神社の神杉、新潟県—東川ノ霊木杉、揚川ノ神杉などがあげられる。

巨樹の樹杉は一種の風格と気品を備えている。仙人がこの樹木を伐採するさいには低声で呪文を唱え、木に斧を立てかけるとか、その木の小枝を立てて山神を祭るならわしがあった。万葉時代に七尾湾の能登島で行なわれた万葉の歌が次のように残っている。

“鳥総立て 船木伐るといふ能登の島山 今日見れば木立繁しも幾代神びぞ”とある。現在でも巨樹の伐採にあたっては「たたり」のあることを恐れ、丁重な祈りを捧げる。

##### ② 畸態樹

異常な形態をした巨樹に対しては強烈な生命力と畏敬の念が湧いてくる。全国各地にこれに類する樹木が保存されている。岐阜県や新潟県—逆杉、富山県—立山のカムロスギ、



傘松, 山口県 — 飛龍ノ大杉, 長野県 — 阿弥陀ノ笠松, 伊野ノ富ヒ松, 栃木県 — 塩原ノ逆杉, 石川県 — 上戸ノ逆杉, 和歌山県 — 振柏榎, 稔木杉, 東京都 — 争杉, 青森県 — 高木ノ神櫓などがあげられる。

### ③ 木霊合祀樹

中世の開拓時代には、魔物の住む暗国の場所として恐怖の念を抱いていた森林を農耕のために伐採した。しかし樹木に宿る精霊のたたりを恐れ、自然と人間の和解の意味で代表樹に木霊を合祀したものか。二宮尊徳の『万物発言集』に「人道は五穀を蒔き、天道は生育をおこなう。天道は自然であり、人道は作事である。天道と人道が和合して、百穀はその実を結ぶ」と述べている。

この木霊合祀樹に宿る神々や精霊は開墾が終わり、農耕が開始されるとさらに農作物に野生的な強い生命力を与えられるように祈願し、崇敬し、愛護したものと考えられる。

愛知県 — 婆桜, 東京都 — 相生杉

### ④ 繁栄樹 (宇宙樹)

樹形に風格があり、成長の迅速な樹木としてモミがある。富山県でも子孫の繁栄を予祝する樹木として植えられる風習があった。富山県 — 千寿樅その他, 埼玉県, 岩手県, 愛知県, 福島県, 東京都, 広島県, 鳥取県などにもこの巨樹が温存している。なおこの繁栄樹には天界と地界とを結ぶ「依代」としての性格もある。富山県 — 昇天ノ松

### ⑤ 矢立樹

戦国の戦乱時代では戦場に出陣の折、巨樹に矢を射こんで、勝敗を占い、勝利を祈願する風習があった。宮城県 — 矢立杉, 岩手県 — 矢立松, 矢立の榎, 富山県 — 矢立杉

### ⑥ 農暦樹

自然を相手とする農業は、春の開葉、開花の状態で農耕作業を進めると同時に、その年の豊凶を占う風習が全国各地に残っている。ケヤキ — 新葉の出方, サクラ, フジ, タニウツギ — 花期の遅速などがあげられる。

### ⑦ 記念樹

1) 昔の有名人がその土地で記念に植えた樹木。熊本県 — 清正公手植の松, 高知県 — 真如上人手植ノ松, 広島県 — 高倉天皇御幸ノ松, 寺田, 清盛松, 平重盛手植ノ松, 高倉院御手植ノ松, 岡山県 — 円光大師手植ノ公孫樹, 鳥取県 — 恵心僧都手植ノ公孫樹, 大阪府 — 円融法皇御手植ノ梅, 京都府 — 栄西禅師御手植ノ菩提樹, 豊太閣手植ノ菩提樹, 和歌山県 — 奥州秀衡手植ノ桜, 茨城県 — 頼朝公手植の梅, 富山県 — 謙信手植ノ松,

謙信手植ノ杉, 両陛下御手植ノ杉

ロ) 苦難の地域に生育する樹木を記念樹として、神社、仏閣に植えた樹木として、戦勝記念に神社境内に植えられたコウヨウザン, 深山幽ノ谷を調査した藩政時代の山廻り役の人たちが寺院の境内に移植したコメツガ, クロベ, カラマツ, オオシラビソなどがある。

### ⑧ 奇蹟樹

弘法大師や親鸞上人が巡錫の際、杖や種子などによって樹木の生育の奇蹟を示して、布教の手段とした次の例があげられる。

イ) 杖によるもの 岩手県 — 弘法大師ノ倒ひば, 愛媛県 — 弘法大師棒ノ御杖

ロ) 種子によるもの 富山県 — 親鸞上人の布教証拠のカキの種子, シナノキの種子 (菩提樹と書く)

### ⑨ 標識樹

山の境界を定めるための目じるしに特殊な樹木を定めるとか、海の出漁のさいに陸上の巨樹を目じるしとして大切に保存してきた。

イ) 山の境界木 富山県 — ヒノキアスナロ (地方ではクサマキと呼ぶ)

ロ) 海からの目標木 富山県 — マツ, スギ

### ⑩ 信仰にまつわる樹木

イチョウ, サルスベリ, タラヨウなどの樹木をあげることができる。

## 8. おわりに

当生物学会誌第23号に「富山県における天然記念物指定植物と代表的植物群落の分布及びそれらの特徴」と題し、富山県林政課から発刊した「富山県緑化地図」の説明書として発表し、それを掲載した。

緑化地図には国、県が定めた公園、自然環境保全地域を記載し、さらに点で国、県、市町村指定の樹木、群落を示した。また顕著な山野の花と緑の群落をあげてそれを記載した。

前記の説明書には全国の都道府県で指定されている各科や優占種の件数をあげて、富山県と比較した。またこれらの樹木の指定規準の目やすとして「樹木天然記念物指定規準と生長限界」をあげた。なお旧街道の往還松の時代的变化や県民の樹木に対する習俗などもあげた。参考資料として、「富山県樹種別森林資源表」, 「保安林と今後の整備計画」, 「富山県海岸線の海蝕状況」などをあげた。

今度の「全国および富山県の巨樹・名木とその特性」は前記の調査研究を基盤として、特に巨樹・名木に関し全国的に拡大して、これらの樹木の農業生産時代と工業生産時代との比較を地



域別に気候区分の立場から検討して、この中からこれらの樹木が何を物語っているかを熟読吟味した。なお富山県においても同じ基盤に立って調査研究を行った。

現代は国際化時代を迎え、地球的な観点に立って、有限の化石燃料文明をどう打開するか、また将来の食糧問題を、あるいは酸性雨、温室効果、その他による気候の変動などを総合的に考えるべき危機に人類が直面している。この打開策として、長い年代にわたって自然の厳しい風雪に耐えて生き抜いて来た巨樹・名木に接して異常の有無を打診する素材として、また生き方のモデルとして今後のわれわれの歩みに何かの示唆を得ることができれば幸いである。

### 9. 参考文献

- 本多静夫編 1913 大日本老樹名木誌 大日本山林会  
 牧野富太郎 1955 牧野日本植物図鑑 北隆館  
 阿部次郎, その他 1951 日本文化の見方(現代教養文庫9) 社会思想研究会  
 文化庁臨修 1971 天然記念物事典 文化庁文化財保護部  
 柳田国男監修 1971 日本伝説名集 日本放送協会  
 香原志勢監修 1973 日本人と自然(ライフネーチャライブラリー) タイムライフ  
 ブックス  
 斎藤 忠 1978 日本史小百科(4) 墳墓 近藤出版社  
 渡辺 武・安藤芳顕 1980 椿 家の光協会  
 友永剛太郎 1984 21世紀を変える植物資源産業 読売新聞社  
 麓 次郎 1985 四季の花事典 八坂書房  
 且原純夫 1985 デザインされた木 筑摩書房  
 筒井迪夫 1985 緑と文明の構図 東京大学出版会  
 田中久夫編 1986 祖先祭祀の歴史と民俗 弘文堂  
 牧野和春 1986 巨樹の民俗学 恒文社  
 八木下弘 1986 巨樹(現代新書) 講談社  
 小喜田二郎 1987 素朴と文明 講談社  
 斎藤正彦編 1987 森と文化 東京大学出版会  
 高橋浩一郎, 岡本和人 1987 21世紀の地球環境 NHKブックス 525

### 国指定の巨樹



利賀村 協谷のトチノキ



高岡市北般若の毘沙門スギ  
台風で倒壊し今はない



利賀村 利賀のトチノキ  
長年の風雪に重味を感じさせる樹幹





縄ヶ池の大スギ



片貝川阿武木谷の大スギ



福岡町浅井神社の杉並木



剣岳早月尾根の大スギ



舟見街道の町松



福岡町赤丸浅井神社の大けやき



富山市西岩瀬諏訪社の大けやき



大山町馬瀬口の大サルスベリ





入善町の保存木エノキ



魚津市北鬼江神社の大ケヤキ



片貝川河口の犬山ヤナギ



黒部市嘉例沢の大スギ

本 会 記 事

昭和62年度

4月25日(土) 第370回例会 総会ならびに研究発表会 於 富山市科学文化センター

・総会

昭和61年度事業報告・決算

昭和62年度事業計画・予算案審議

・映写と発表

中国シルクロードの自然と人 本多省三, 本多啓七

5月24日(日) 第371回例会 第1回野外研修会 魚津市 松倉城址

8月22日(土)~23日(日) 第372回例会 第2回野外研修会

風吹大池での研修, 来馬温泉一泊, 梅池湿原での研修

① 風吹大池の周辺は風衝地帯でオオンラビソは低木状となり, 池畔はシバを敷きつめたようなイワイチョウ・ショウジョウソグ群集の植生が展開していた。下山の途中で日が暮れ, 暗黒の山道を電池の光をたよりに車道に出た。宿でホッとした。

② 梅池湿原は入園料を必要としていた。木道の管理が大変のようである。各種の湿原形態を観察することができた。富山県の湿原には生えていないクロバナロウゲの黒紫色の草花は印象的であった。

9月23日(水) 第373回例会 医王山での研修

12月12日(土) 第374回例会 定例研究発表会 於 富山中部高校生物室

1. ふ化に関連する卵菌について 坂下 栄作
2. 富山県のハッチョウトンボ 田中 忠次
3. コシダの北限について 本瀬 晴雄
4. 富山県の巨樹名木とその特性 本多 啓七

昭和63年度

3月26日(土) 第375回例会 役員会 於 富山県民会館